

神戸市大規模集客施設影響調査指針

神戸市大規模集客施設の立地に係る都市機能の調和に関する条例（平成18年3月条例第54号。以下「条例」という。）第3条第1項に基づく神戸市大規模集客施設影響調査指針を次のとおり定め、平成18年4月1日から適用する。

事業者は、以下の事項について、大規模集客施設の立地に伴い周辺地域に及ぼす影響に関する調査を実施し、その結果を踏まえて、大規模集客施設の新築等の基本計画書を作成するものとする。作成に当たっては、周辺環境へ配慮し、事業内容について理解を得られるよう、誠実かつ丁寧な対応に努めること。

1. 駐車場に関する調査

(1) 必要駐車台数の算定

当該大規模集客施設に必要な駐車台数を以下により算定すること。

① 大規模小売店舗である場合

当該大規模集客施設が大規模小売店舗立地法（平成10年法律第91号。以下「法」という。）第2条第2項に規定する大規模小売店舗である場合にあっては、法第4条第1項に基づく「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針」（以下「法指針」という。）の必要駐車台数計算式及び考え方（法指針二-1-（1）-①「駐車場の必要台数の確保」をいう。以下同じ。）及び「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき基本事項に関する運用基準」に基づいて必要駐車台数を算定すること。

なお、特別な事情により、法指針の必要駐車台数計算式の各原単位等の値、又は、法指針の必要駐車台数計算式によらずに他の方法で算定した場合は、その事情及び根拠となる資料を示すこと。

② 大規模小売店舗に該当しない場合

当該大規模集客施設が法第2条第2項に規定する大規模小売店舗に該当しない場合にあっては、法指針の必要駐車台数計算式及び考え方に準じて必要駐車台数を算定すること。なお、施設の用途に応じて必要駐車台数計算式の各原単位等の値を設定するとともに、その設定の根拠となる資料を示すこと。

ただし、法指針の必要駐車台数計算式による算定が適当でない場合は、施設利用者数、施設稼働率等から推察することにより、必要駐車台数を算定すること。また、その算定の根拠となる資料を示すこと。

(2) 特約駐車場を利用する場合の調査

当該大規模集客施設に附属する駐車場以外に、周辺の駐車場を特約駐車場（大規模集客施設の利用者の駐車料金を大規模集客施設の設置者等が一部負担する方式による駐車場をいう。以下同じ。）として利用する場合は、特約駐車場の現在の利用状況（休

日及び平日における当該大規模集客施設の開店時間から閉店時間までの間の各時間帯における空駐車区画数などを調査し、当該大規模集客施設に附属する駐車場と特約駐車場の利用により、(1)で算定した必要駐車台数を確保できることを証明する資料を示すこと。

2. 道路交通への影響に関する調査

(1) 現況交通の調査

当該大規模集客施設周辺の現況交通量の調査を実施するなど、現況交通の実態を把握すること。

〈調査方法の例（現況交通の把握）〉

当該大規模集客施設の周辺交差点における現在交通量の調査を以下により実施し、ピーク時交通量、交差点飽和度及び車線別混雑度を算定する。

① 調査実施時間

交通量調査は平日及び休日の両日において、原則として当該大規模集客施設の開店時間の前1時間及び閉店時間の後1時間を加えた時間帯において実施する。

② 調査対象交差点

調査対象とする交差点は、来店車両の来退店経路ごとの最寄交差点を基本とするが、当該大規模集客施設の開店に伴う交通量の増加による影響が広範囲にわたることが予想される場合は、影響範囲にある交差点についても調査対象に含める。（影響範囲にある交差点の目安としては、開店後のピーク時の交差点飽和度0.8以上又は車線別混雑度1.0以上となる交差点とする。）

また、当該大規模集客施設の立地場所が隣接市町との境界に近接している場合（当該大規模集客施設の敷地境界から概ね1キロメートルの範囲内に県内他市町の区域が含まれる場合）は、隣接市町にある交差点を調査対象に含める。

【ピーク時交通量】

交差点ごとの交差点交通量合計が最大となる時間帯の交通量

【車線別混雑度】

車線別の交通量と交通容量の比率

※交差点飽和度、車線別混雑度の算定に当たっては、社団法人交通工学研究会編集・発行「改定 平面交差の計画と設計」の算定方法等を参考にすること。

(2) 開店後の交通流動の予測及び対策

当該大規模集客施設開店後における周辺の交通流動を予測し、大規模集客施設新設後の円滑な交通処理について、交差点改良（右折、左折付加車線の設置等）や信号現示変更又は信号機新設など、必要な対策を提案すること。

〈調査方法の例（開店後の交通流動の予測）〉

当該大規模集客施設の周辺交差点の開店後におけるピーク時交通量、交差点飽和度及び車線別混雑度を予測する。

① 開店後のピーク時交通量

開店後のピーク時交通量は、交差点ごとの現況のピーク時交通量に、大規模集客施設の新築等により新たに発生する交差点ごとのピーク時来退店台数を加えることにより算定する。

② ピーク時来退店台数

新たに発生する交差点ごとのピーク時来退店台数は、次の手順により算定する。

ア 来店者の分布範囲の設定

当該大規模集客施設の種類、規模、近隣の類似施設の立地状況等を考慮して、来店者の分布範囲を設定する。

イ 来退店経路の設定及び分布範囲の分割

来店者の分布範囲内の幹線道路により、当該施設の来退店経路を設定し、来店者の分布範囲を方面別に分割する。

ウ 方面別ピーク時来退店台数の算定

分割したゾーンの世帯数構成比によってピーク時来退店台数を按分し、方面別ピーク時来退店台数を算定する。

なお、ピーク時来退店台数は、(1)の必要駐車台数を算定する際に設定した「大規模集客施設へのピーク1時間あたりの自動車来台数」と同数とする。

エ 交差点ごとのピーク時来退店台数の算定

方面別ピーク時来退店台数を基にして、対象交差点に流入する来退店台数を計算する。

③ 信号機のない交差点の場合

信号機のない交差点（一時停止制御交差点）を予測対象とする場合は、「非優先交通の交通容量」を算定する。

④ その他配慮すべき事項

ア 当該大規模集客施設の周辺に、新築等の時期が同時期となる他の大規模集客施設の立地計画がある場合は、それらの発生集中交通量も考慮して交通量予測を行う。

イ 将来において周辺道路の整備計画がある場合にあつては、開店時における道路整備状況を基本にして交通量予測を行う。

※交差点飽和度、車線別混雑度及び非優先交通の交通容量の算定に当たっては、社団法人交通工学研究会編集・発行「改定 平面交差の計画と設計」の算定方法等を参考にすること。

(3) 駐車場出入口の入出庫台数の予測及び対策

駐車場の各出入口のピーク時入出庫台数を算定し、大規模集客施設の新設後における円滑な交通処理について、駐車場入口の駐車待ちスペースの設置など必要な対策を提案すること。

(4) その他道路交通に関する評価及び対策

状況に応じて、歩行者の安全の確保や利便の確保、一般車両や路線バスへの影響等に関する以下の事項について調査し、必要な対策を提案すること。

- ア 来退店経路、駐車場出入口周辺における歩行者の安全の確保に関すること。
- イ 当該大規模集客施設の周辺における歩行者の利便の確保に関すること。
- ウ 通学路との関係における児童、生徒の安全の確保に関すること。
- エ 駐車場出入口周辺における一般車両への影響に関すること。
- オ 駐車場出入口と路線バス停車場、路線バス優先レーンとの位置関係における路線バスへの影響に関すること。
- カ 公共駐車場その他の周辺大規模駐車場の入出庫への影響に関すること。
- キ 来退店経路の周知に関すること

3. 道路以外の公共施設への影響に関する調査

当該大規模集客施設の敷地境界から概ね500メートル以内に存する公園、緑地、下水道、河川等の道路以外の公共施設を対象に、当該大規模集客施設の新築等に伴いそれら公共施設の機能への新たな負担や利便性を阻害する要因の有無及びその内容について調査し、必要な対策を提案すること。

4. 景観形成に関する調査

当該大規模集客施設の立地する地域における伝統的景観、自然景観、街並みなど景観に関する状況及び統一した色彩や外観形成による街並みづくり、緑化事業などの景観形成に対する取組状況を調査し、必要に応じて、当該大規模集客施設が周辺の景観に調和するために配慮して新築等の建築計画に反映する事項を提案すること。

また、当該大規模集客施設または当該大規模集客施設が立地する地域に適用される景観形成に関する法令、条例、協定等（景観法に基づく景観計画や景観地区、都市計画法に基づく風致地区や地区計画、神戸市都市景観条例、建築協定など）を調査すること。

5. 周辺環境への配慮について

当該大規模集客施設の立地する周辺環境に配慮することとし、次の事項を行うよう努めること。

- ① 事業内容について近隣説明を行い、理解を得る。
- ② 近隣説明経過を書面で市に報告する。
- ③ ①、②に関することを基本計画書に反映する。

なお、関係法令・条例にも近隣説明が義務付けられている場合、近隣関係者への負担に配慮し、誠実かつ丁寧な説明を行うこと。

(例：神戸市開発事業の手續及び基準に関する条例による住民説明)

◇改訂履歴

- ・平成 18 年 4 月
- ・平成 28 年 4 月
- ・令和 2 年 4 月